

「住民参画の自主的な地域づくり活動」を支援

まちづくり活動支援事業の事例紹介

令和6年度にまちづくり活動支援事業を活用して実施した
「ウニの学校プロジェクト」と「祭の音2024」をご紹介します。

「ウニの学校プロジェクト」

ウニの学校プロジェクトは、積丹町の観光資源の柱・ウニを「食」以外の視点からも注目してもらおうことを目的に令和3年度にスタートしました。町内の水産業にかかわる人々の活動や取り組みの現状を、町内外の子どもから大人、企業まで体験型プログラムを通して幅広く理解を深められる内容を企画しています。



主催団体のSHAKOTAN^{うみもり}海森学校（小山彩由里代表）では、8月10日に地元漁業者の協力を得て、水中で暮らす海の生き物に触れることができる「お魚タッチプール」（写真）を開

催しました。ヒトデやウニといった身近な生き物から、めつたに見ることができない沖に生息する魚が大集合しました。10月中旬には、「海森サスティナビリティセミナー」、10月下旬に「積丹産ブランド^{ぶらう}鰺・鰺宝^{しほう}

ツアー」の開催が予定されています。

同団体からのお知らせや詳細は、海森学校HP：<https://umimori.club/>の活動レポートをぜひご覧ください。

3年連続3回目の開催 「祭の音2024」

「積丹を盛り上げたい！」と令和4年度から始まった「祭の音」は今年で3回目となり、主催団体の積丹町祭の音実行委員会（五十嵐慎一郎委員長）は、8月31日に岬の湯しゃこたん前駐車場で「祭の音2024」を開催。

ソーラン節発祥の地をPRするため積丹町鯉場音頭保存会や



やキッチンカー、ステージが設けられ、夜までにぎわいが続きました。

第1回目にお披露目されてから恒例となっている「シャコタニアン音頭」も町内に浸透してきています。

参加者全員での「シャコタニアン音頭」を踊りおさめたラストには、野塚漁港から花火が打ち上げられ、祭典を締めくくりました。

なお、町では助成団体・事業者による事業報告会を今後予定しています。

YOSAKOIチームの演舞、多彩なジャンルのアーティストやプロのバスケットボールチームのパフォーマンスが会場を盛り上げ、地域住民も観光客も一緒に楽しめる場となりました。

会場中心に設置したやぐらを囲むように積丹町商工会女性部の皆さんがつくる「浜鍋」などの出店



＝ 札幌大谷大学と連携 / 積丹町の保育力向上を目指して ＝ **" 研鑽^{けんさん}に励む " 町保育所職員研修会**

札幌大谷大学・短期大学部の専門性を生かした当町の地域資源の発掘や人材育成を目的に平成30年に締結した当町との社会連携協定の一環として同短期大学部保育科の早坂^{はやさか}聡子^{さとこ}准教授を招き、保育所職員研修会を9月11日に開催しました。

びくに保育所、みなと保育所の両保育所には、8名の保育士を含む17名の職員が保育業務に関わっています。子どもたちと保護者に信頼される職員を目指す職員にとって、毎日の業務と自己研鑽^{けんさん}の両立の難しさが課題です。平成29年に小学校学習指導要領の改訂と同時に保育所保育指針も改正となり「子どもを権利の主体」とすることが再定義され、より一層保育者の資質の向上が求められていることから、研修会では、主体的な保育の実践や子どもの非認知能力を育むための適切な声掛けや関わり方などを学びました。

今後も職員一人一人の保育技術の向上を目指し、保護者が安心して預けられる公立保育所の運営に職場ぐるみで取り組みます。



▲▼ 早坂先生の講話（びくに保育所）



トは5回目となり、今回は町内10の農業者や飲食店などの事業所が参加。ジャガイモやカボチャ、色鮮やかなパプリカなどの新鮮な野菜が販売され、イカや鮭などの魚介

～特産品を求め、来場者でにぎわう～ **しゃこたん 軽トラ市**

9月14日、美国漁港海岸で積丹町商工会（馬場龍彦会長）が主催する『しゃこたん軽トラ市』が開催されました。平成30年に始まったイベント



類、焼きそばやクレープ、町内特産品等を求めて町内外から多くの来場者でにぎわいました。

